

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部	教授	手嶋慎介
最終学歴	学位	専門分野
愛知学院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位 取得満期退学	修士（経営学）	経営学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生の成長機会の創出に努めるため、担当科目のみならず、ライフデザイン科目や各専門科目を中心に目を配り、ビジネス社会・地域とのつながりを意識する。学生と一体感を持って取り組む。

【目標】

ライフデザインに関する知識・スキルを身につけ、ビジネス社会で通用する実践力や、オンラインの特長を有し、地域で活躍できる職業人を養成する。そのための意欲喚起策を検討する。

【方針】

学生一人ひとりの知識・スキルの修得状況は異なることや、ビジネス社会・地域が変化し続けることから、そこで求められるものの把握に努める。将来への展望を描く。

【計画（方法）】

学生のライフデザイン・ビジネス実践力の育成に結びつくような、受講生に適した授業法・学習法および教材を検討し作成する。これらについて、学生からのフィードバックの機会を求める。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

イノベーション入門、インターンシップA、インターンシップB、インターンシップC、基礎演習I、キャリア体験、専門演習I、専門演習III、専門プロジェクトIII、ライフデザイン

（後期）

インターンシップB、インターンシップC、基礎演習II、経営組織論、専門演習II、専門演習IV、専門プロジェクトIV

○教育方法の実践

ゼミ活動を中心に課題発見・解決型学習を行ってきたものを、講義においても一部導入したことに加え、『地域と連携した授業・活動報告会』への参加を促し、『専門プロジェクトIV』の受講生による学外での報告会への参加および学生主体の学外（沖縄）フィールドワークの実施を支援した。

○作成した教科書・教材

2023年の共著『最新インターンシップ-ニューノーマル時代のキャリア形成』（学文社、2023年1月、後掲）に所収されている資料等をもとに、『ライフデザイン』、『キャリア体験』、『インターンシップA』の教材として活用するためのTeamsによる配布資料を作成した。

○自己評価

『専門プロジェクトIII』『専門プロジェクトIV』やゼミ活動を中心に、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業を展開し、今年度より新たに担当した『経営組織論』においても同様の試みを継

続できた。したがって、当初の目標・計画については、おおむね達成することができた。

II 研究活動

○研究課題

経営・ビジネス系専門教育における職業統合的学習の理論的・実践的研究

○目標・計画

【目標】

経営・ビジネス系専門教育における、地域ビジネスなどを通じた地域活性化や地域創生に関わるプロジェクト等の取り組み実践について「職業統合的学習（WIL；Work Integrated Learning）」の視点から比較検討し、類型化する。

【計画】

本年度は、これまで取り組んできた地域ビジネスなどを通じた地域活性化や地域創生に関わるプロジェクト等の実践に関する研究を日本インターンシップ学会等で発表する。なお、研究成果については、学術論文等として公刊するなど、広く社会に情報発信する。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・愛知東邦大学地域創造研究所編、堂野崎融、寺島雅隆、松井慶太、大須賀元彦、西川三恵子、手嶋慎介、見目喜重、中野匡隆、林空生『大学キャリア支援の実践と可能性』唯学書房、2026年3月
- ・古閑博美、牛山佳菜代編著、山口圭介、松坂暢浩、山本美奈子、今永典秀、手嶋慎介、二上武生、戸崎 肇、高瀬和実、高澤陽二郎、柴田仁夫、上岡史郎、眞野目悠太、井崎美鶴子『最新インターンシップーニューノーマル時代のキャリア形成』学文社、2023年1月
- ・岡野絹枝、清水たま子編、手嶋慎介、平田祐子、吉田智美、中原垂紀美、若生眞理子、朱宮裕子、岡野大輔、西川三恵子、高宮貴代美、河合晋『よくわかる社会人の基礎知識～マナー・文書・仕事のキホン～』ぎょうせい、2019年4月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所編、大勝志津穂、梶山亮子、手嶋慎介、加納輝尚、山本恭子、上野真由美、船木恵一、深谷和広、阿比留大吉、河合晋、水野英雄、奥村実樹、若月博延『地域が求める人材』唯学書房、2019年3月

（学術論文）

- ・手嶋慎介「産官学連携による地域ビジネス教育の試み」『関西ベンチャー学会九州研究部会第30回研究発表会記念誌』関西ベンチャー学会九州研究部会編、デザインエッグ社、2022年12月、pp.50-59
- ・江藤智佐子、手嶋慎介、椿明美「インターンシップから職業統合的学習（Work Integrated Learning）への展開可能性ー研究誌からみた学会の研究動向に着目してー」『インターンシップ研究年報』第24号、2021年11月、pp.21-39
- ・米本倉基、大重康雄、坂本理郎、高橋眞知子、手嶋慎介「学会員ニーズ調査に基づくチーム研究の在り方検討ー学会ワーキング・プロジェクトからの報告ー」『ビジネス実務論集』No.37、2019年3月、pp.129-136
- ・手嶋慎介、梶山亮子「地方公務員を目指す学生の内的キャリア形成についての一考察ー公務員試験対策プログラム受講者へのアンケート調査をもとにー」『東邦学誌』第47巻、第1号、2018年6月、pp.111-135

(学会発表)

- ・手嶋慎介『地域ビジネス教育の再検討－産官学連携モデルの構築に向けて－』関西ベンチャー学会第37回九州研究部会、2026年2月
- ・見目喜重、手嶋慎介『愛知中小企業家同友会インターンシップの今後の在り方』日本インターンシップ学会第26回大会、DO-BOX EAST、2025年9月
- ・手嶋慎介、松井健斗『産官学連携による若者支援を通じた地域活性化の取り組み(3)－『カナメヤキャンパス』の活用を中心に－』関西ベンチャー学会第36回九州研究部会・第11回中部経済研究部会合同開催、デンパサール・マハサラスワティ大学／ハイフレックス、2025年8月
- ・手嶋慎介『起業家によるゲストスピーカー授業に関する考察－学生による振り返りの検討を中心に－』関西ベンチャー学会第35回九州研究部会・中部経済研究会合同開催、ハノイ貿易大学／ハイフレックス、2025年2月
- ・手嶋慎介、見目喜重『愛知中小企業家同友会インターンシップの現状と課題』日本インターンシップ学会第25回大会、愛知東邦大学、2024年9月
- ・西川三恵子、手嶋慎介、堂野崎融、大須賀元彦『地域連携活動に関する共同教育プログラムの検証』日本ビジネス実務学会第43回全国大会、安田女子大学・安田女子短期大学、2024年6月
- ・堂野崎融、加納輝尚、手嶋慎介『マナーリテラシー教育プログラム開発に向けた展望と課題』日本ビジネス実務学会第43回全国大会、安田女子大学・安田女子短期大学、2024年6月
- ・手嶋慎介、高橋涼馬『読谷村プロジェクト2023－「第49回読谷まつり」への参画と沖縄フィールドワーク』関西ベンチャー学会第9回中部経済研究部会、愛知東邦大学／ハイフレックス、2023年12月
- ・手嶋慎介『初年次経営学科目へのアクティブ・ラーニングの導入－地元の新聞社との連携による電子新聞の活用を中心に－』関西ベンチャー学会第32回九州研究部会、九州共立大学／ハイフレックス、2023年9月
- ・堂野崎融、手嶋慎介、大須賀元彦、西川三恵子『他大学との相互連携における地域連携活動による学生交流および検証』日本ビジネス実務学会第42回全国大会、大手前学園さくら夙川キャンパス・E棟、2023年6月
- ・手嶋慎介、武馬知希『『名古屋センキョ割実行委員会』の取り組みの現状と課題』関西ベンチャー学会第8回中部経済研究部会、愛知東邦大学／ハイフレックス、2022年11月
- ・梶山亮子、手嶋慎介『地域との連携によるプロアクティブ行動促進について』日本ビジネス実務学会第41回全国大会、愛知東邦大学(オンライン)、2022年6月
- ・手嶋慎介、谷口正博『イベント運営体験を通じたアントレプレナーシップ教育の試み』関西ベンチャー学会第29回九州研究部研究会、オンライン、2022年3月
- ・手嶋慎介、松井健斗『産官学連携による若者支援を通じた地域活性化の取り組み(2)－名古屋市内における実践事例－』関西ベンチャー学会第28回九州研究部会合同研究会・第6回中部経済研究部会、オンライン、2021年11月
- ・手嶋慎介、江藤智佐子、椿明美『ビジネス系大学教育における職業統合的学習』日本インターンシップ学会第22回大会、札幌国際大学、オンライン、2021年9月
- ・江藤智佐子、椿明美、手嶋慎介『職業統合的学習とインターンシップ研究』日本インターンシップ学会第22回大会、札幌国際大学、オンライン、2021年9月
- ・椿明美、江藤智佐子、手嶋慎介『豪州における職業統合的学習(WIL)実施大学の比較研究』日本インターンシップ学会第22回大会、札幌国際大学、オンライン、2021年9月
- ・手嶋慎介、松井健斗『産官学連携による若者支援を通じた地域活性化の取り組み－ベンチャー研究におけるリーダーシップ教育の視点－』関西ベンチャー学会第27回九州研究部会合同研究

会、オンライン、2021年7月

- ・手嶋慎介、西川三恵子、堂野崎融、貝掛祥広、正田淳一『大学間連携による地域ビジネス教育』関西ベンチャー学会第26回九州研究部会合同研究会・第5回中部経済研究部会、オンライン、2021年3月
- ・手嶋慎介、西川三恵子、堂野崎融、貝掛祥広、吉村美路、河合厚志『「地域と連携した授業・活動」をテーマとする学生セッション事例研究ー遠距離大学間連携による共同教育プログラムの開発に向けてー』日本ビジネス実務学会第39回全国大会、オンライン、2020年6月
- ・岡野大輔、手嶋慎介、河合晋『ビジネス実務を考える～「よくわかる社会人の基礎知識」刊行にあたって～』2019年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、金沢星稜大学、2020年1月
- ・山本玲子、河合厚志、手嶋慎介『つながる・ひろがる読谷村プロジェクト1.0』2019年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、金沢星稜大学、2020年1月
- ・島袋泰志、阿比留大吉、河合厚志、手嶋慎介『大学の教育プログラムと連動したスタートアップビジネスの事例報告～TOHO Learning Houseの仕組みと実績～』2019年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、金沢星稜大学、2020年1月
- ・手嶋慎介、島袋泰志『読谷村をフィールドとするキャリア教育プログラムの構築ー読谷村インターンシップ・PBL事例を中心にー』関西ベンチャー学会第4回中部経済研究部会・第24回九州研究部会合同研究会、愛知東邦大学、2019年8月
- ・坂本理郎、手嶋慎介『JAUCB 受託研究報告 地域・産学連携事業の実践を通じたモデルの探求「企業従業員と学生コラボチームによる業務課題解決プロジェクト」』日本ビジネス実務学会第38回全国大会、目白大学、2019年6月
- ・島袋泰志、阿比留大吉、河合厚志、榊直樹、手嶋慎介、寺島雅隆、山極完治『読谷村インターンシップ・PBLの現状と課題ー読谷村村長推薦入学生による活動事例をもとにー』日本ビジネス実務学会第38回全国大会、目白大学、2019年6月
- ・山本玲子、上條憲二、榊直樹、手嶋慎介、深谷和広、船木恵一『ビジネスプランコンテスト出場プロセスにおける主体的学びとその支援』日本ビジネス実務学会第38回全国大会、目白大学、2019年6月
- ・手嶋慎介、奥村実樹、加納輝尚、河合晋、黒野伸子、堂野崎融、西川三恵子、信川景子、若月博延（中部ブロック研究会共同研究者）『JAUCB 受託研究成果報告』2018年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会・近畿ブロック研究会合同研究会、新大阪丸ビル別館、2019年2月
- ・手嶋慎介、阿比留大吉、葛岡亮哉『教育寮における起業家育成の可能性ー自主運営寮「TOHO Learning House」の事例をもとにー』関西ベンチャー学会第3回中部経済研究部会・第22回九州研究部会合同研究会、岡崎・セントラルホテル、2018年6月
- ・加納輝尚、山本恭子、上野真由美、手嶋慎介『地域・産業界との協働をめざすプレゼンテーション教育の可能性ープレゼンテーション基礎教育に基づく取組事例ー』日本ビジネス実務学会第37回全国大会、徳島文理大学、2018年6月

(特許)

なし

(その他)

- ・『シンポジウム「街と大学が共に育つ“共育の街”を目指して」パネルディスカッション:「あらためて、地域が教室」』パネリスト、愛知東邦大学地域創造研究所、愛知東邦大学地域・産学連携センター『TOHO アカデミック・フェスタ 2026』愛知東邦大学スチューデント・commons、2026

年 3 月

- ・『「論文投稿への不安を、次の一步に」ー口頭発表から論文投稿へ、論集の質向上を考えるー』【第 2 部】編集委員会委員と語る“論集の質向上”ーパネル座談会ーパネラー、日本ビジネス実務学会主催オンラインセミナー、オンライン、2026 年 2 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所・キャリア支援研究部会研究会 #10 (共催：九州共立大学『協定校との地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進』『オープンイノベーション拠点 STATION Ai の魅力』主査、STATION Ai、2026 年 2 月
- ・2025 年度第 2 回全学 FD 研修会『実践型プロジェクト学習における学生の変容と課題～「専門プロジェクトⅢ・Ⅳ」「キャリア体験」の 2024 年度実践報告』、講師愛知東邦大学、2026 年 1 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所・キャリア支援研究部会研究会 #09 (共催：キャリア支援センター)『卒業生に学ぶキャリア 第 1 回「地域×挑戦×自分らしさ」』主査、オンライン、2025 年 8 月
- ・研究発表 B 会場 (10301 教室) 座長『日本ビジネス実務学会第 44 回全国大会』目白大学・目白大学短期大学部、2025 年 5 月
- ・2024 年度高大合同教職員研修会『初年次キャリア教育から経営学部教育へ』講師、愛知東邦大学、2025 年 2 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会 #08 (共催：九州共立大学『協定校との地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進』『岐阜県中津川市における若者の定住推進に向けた PBL の実践報告』主査、九州共立大学、2025 年 2 月
- ・開会式実行委員長挨拶／開催校イベント「Rethink 愛知東邦大学ー共創の舞台づくり」司会『日本インターンシップ学会第 25 回大会』愛知東邦大学、2024 年 9 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会 #07 (共催：キャリア支援センター)『中小企業で働く魅力と、地域密着がもたらす可能性』主査、愛知東邦大学、2024 年 7 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会 #06 (共催：キャリア支援センター)『キャリアデザイン・ワークショップ研究ー就活の第一歩！やりたいことを見つけよう！』主査、愛知東邦大学、2024 年 7 月
- ・総括コメント『2023 年度日本インターンシップ学会東日本支部第 3 回研究会』愛知東邦大学／ハイフレックス、2024 年 6 月
- ・研究発表 C 会場 (1309 教室) 副座長『日本ビジネス実務学会第 43 回全国大会』、安田女子大学・安田女子短期大学、2024 年 6 月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会 #05 (共催：九州共立大学『協定校との地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進』『地域における課題解決型講義の実践報告』主査、九州共立大学／ハイフレックス、2024 年 2 月
- ・シンポジウム『大学教育における教学 IR の役割』コーディネーター、2023 年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、中京学院大学中津川キャンパス、2024 年 2 月
- ・手嶋慎介、土橋凌介、前川慧至『学生による学生のためのキャリア支援ー「金融リテラシー検定」の学内 PRー』「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会」一般社団法人社会人基礎力協議会、オンライン、2024 年 2 月
- ・手嶋慎介、戸田光、浅井将尊『年中お祭り化計画ー大学を盛り上げる学生たちー』「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会」一般社団法人社会人基礎力協議会、オン

ライン、2024年2月

- ・総括コメント『2023年度日本インターンシップ学会東日本支部第1回研究会』目白大学新宿キャンパス／ハイフレックス、2024年2月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会#04（共催：キャリア支援センター）『Happyな人生を構成する要素って何だろう』主査、愛知東邦大学、2023年12月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会#03（共催：九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学 IR 研修会）『IRとキャリア教育』主査、オンライン、2023年9月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会#02『これからのキャリア支援—地域・教育機関におけるキャリア支援の現状と課題—』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第58回定例研究会、オンライン、2023年7月
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 キャリア支援研究部会研究会#01（共催：キャリア支援センター）『地域インターンシップという選択—複数企業を取材！シゴトリップの取り組み—』主査、愛知東邦大学、2023年6月
- ・ミニシンポジウム『ブロック研究会とDX』パネルディスカッション進行、2022年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、オンライン、2023年2月
- ・地域連携活動報告会『他大学との相互連携における地域連携活動による学生交流およびそれによるFDの推進』学生発表講評、九州共立大学 S407 教室、2023年2月
- ・船木恵一、手嶋慎介、寺島雅隆『ニューノーマル時代の地域連携を考える—大学は何を考えるべきか：愛知東邦大学の事例をもとに—（ランチョンセッション）』日本ビジネス実務学会第41回全国大会、愛知東邦大学（オンライン）、2022年6月
- ・手嶋慎介、高橋涼馬『学生の力で「六大学討論会」を立ち上げる！』『人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会』一般社団法人社会人基礎力協議会、オンライン、2022年2月
- ・地域ブランディング研究部会『ウィズコロナ時代の観光地域づくり・人づくりを考える（2）』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第55回定例研究会、オンライン、2021年8月
- ・ミニシンポジウム『コロナ禍のビジネス実務と教育』進行、コーディネーター、2020年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、オンライン、2021年2月
- ・地域ブランディング研究部会『ウィズコロナ時代の観光地域づくり・人づくりを考える』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第54回定例研究会、オンライン、2020年8月
- ・地域を考える研究会 [SGCR: Study Group to consider the region]、愛知東邦大学地域創造研究所地域ブランディング研究部会『九州共立×愛知東邦「地域を考える研究会」』全体司会進行、九州共立大学、2020年2月
- ・地域ブランディング研究部会『地域プロモーターとして学生寮 TOHO Learning House 5.0 ～長期的持続可能な運営を目指して～』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第53回定例研究会、愛知東邦大学、2019年12月
- ・地域ブランディング研究部会『私たちの「前に踏み出す力」は、地域の創造につながるのか～「つながる・ひろがる読谷村プロジェクト」キックオフミーティング～』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第51回定例研究会、愛知東邦大学、2019年7月
- ・人材育成研究部会『プレゼンテーション教育は「地域が求める人材」の育成に資するのか～地域・産学連携の視点から～』主査、コーディネーター、愛知東邦大学地域創造研究所第50回定例研究会、愛知東邦大学、2019年6月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・愛知東邦大学地域創造研究所 2026 年度共同研究助成(キャリア支援研究部会・主査)申請中
- ・愛知東邦大学地域創造研究所 2025 年度共同研究助成(キャリア支援研究部会・主査)

○所属学会

関西ベンチャー学会、経営行動科学学会、組織学会、日本インターンシップ学会、日本経営学会、日本ビジネス実務学会、日本労務学会

○自己評価

複数回の学会発表に加え、研究所研究会も行い研究所研究叢書を出版することができた。大学間連携協定を締結する九州共立大学共同研究チームとの活動も含め、経営・ビジネス系専門教育における職業統合的学習の理論的・実践的研究を中心に、当初の目標は概ね達成することができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

キャリア支援センター長・キャリア支援センター運営委員会委員長として、委員会重点課題に基づいてキャリア支援に注力する。また、教養教育センター運営委員・学部執行部として正課科目の充実を図るとともに、産業界と連携する活動に積極的に関与し、大学運営に貢献する。

【計画】

キャリア支援としては、他のセンター等による産学連携の動きに伴い、学生の諸活動の活発化に関する改善を通して充実させる。教養教育センター運営委員・学部執行部としては、新カリキュラムに対応した教育研究機関としての大学の基盤整備につながるよう努め、特色づくりに取り組む。

○学内委員等

経営学部長補佐、ビジネス学科長（兼地域ビジネス学科長）、キャリア支援センター長（キャリア支援センター運営委員会委員長）、教養教育センター運営委員会委員、自己点検・評価委員会委員

○自己評価

経営学部長補佐、ビジネス学科長（兼地域ビジネス学科長）、自己点検・評価委員会委員を後期より担った。年間を通して、大学の基盤整備につなげるべく、キャリア教育プログラムを検討するなど、当初の目標は概ね達成することができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

地域企業等との関係を深めるとともに、所属する学会・NPO 活動等に積極的に関与し、キャリア支援事業等に貢献する。

【計画】

地域・産学連携 PBL 等に関連した地域活動や、愛知中小企業家同友会等の外部団体主催のキャリア支援事業等に参画する。学会・NPO の役員としてネットワーク形成に努める。

○学会活動等

- ・日本インターンシップ学会 常任理事／事務局次長 2025 年 9 月～現在に至る
- ・日本インターンシップ学会 東日本支部副支部長 2025 年 7 月～現在に至る
- ・日本インターンシップ学会 理事／年報編集委員会委員 2023 年 9 月～2025 年 9 月

- ・日本ビジネス実務学会 副会長／総務・企画委員会委員 2023年6月～現在に至る
- ・関西ベンチャー学会 中部経済研究部会 幹事 2021年12月～現在に至る
- ・日本ビジネス実務学会 編集委員会委員長 2019年6月～現在に至る
- ・日本インターンシップ学会 東日本支部運営委員 2015年7月～2025年6月

○地域連携・社会貢献等

認定特定非営利活動法人アスクネットの監事、一般財団法人全国大学実務教育協会資格教育課程審査常任委員会委員を務めた。また、「キャリアにおける意思決定と自己理解の重要性」について、シンクエージェント株式会社の転職コラムにインタビューが掲載された（2026年3月13日）。

○自己評価

担当科目に関連するキャリア支援活動の一環として、NPO法人や一般財団法人などの活動への協力を通じて、地域の若年者育成に貢献するよう努めた。学会活動では、学会誌の編集などの学会運営に貢献することができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

平成28年4月より「職業能力開発促進法」に規定された「キャリアコンサルタント（国家資格）」名簿に登録し9年目となるため、引き続き活動を充実させる。

VI 総括

教育と研究はバランスよく取り組むよう努め、当初の目標は概ね達成することができたと思う。大学運営は、急遽、後期より経営学部長補佐、ビジネス学科長（兼地域ビジネス学科長）、自己点検・評価委員会委員を担うこととなったものの、キャリア関連科目担当者として、従来までキャリア支援に関する方向性を模索してきた点、とくに「初年次教育」「インターンシップ」に関して、キャリア支援センター長として活動を継続することができ、関連する研究会開催や学会発表を行うことができた。引き続き貢献できるよう取り組む所存である。社会貢献は教育と関連して行うことをめざし、教育・研究・大学運営を三位一体と考え、行政・NPO・企業との連携構築することや、スチューデントコモンズ等でのイベント企画・開催などの試みを継続することができた。今後さらなる充実をはかりたい。

以 上